

郡山市水素利活用推進構想【概要版】

策定の趣旨

- 水素は、高いエネルギー効率、低い環境負荷等の効果により、将来のエネルギーの中心的な存在として期待
- 国は、エネルギーの安定供給と地球温暖化対策の観点から、「水素社会」の実現に向けた取組みを加速

▶ 水素利活用拡大に向けた取組みを進めるため、これらに関する本市の方向性を示す

水素利活用による効果

省エネルギー・環境負荷低減

- 水素を利用する燃料電池は、エネルギー効率が高い
- 燃料電池を住宅や自動車に利用し、大幅に省エネ
- 再エネ水素の活用により CO₂フリーを実現

エネルギー供給安定性の向上

- エネルギー自給率が低い日本は、安定的なエネルギー供給に課題
- 水素は、水などの化合物の状態が無尽蔵に存在し、多様な方法で製造可能

産業振興・地域活性化

- 水素関連産業は市場規模が大きく、産業振興へ寄与
- エネルギー自給率向上・エネルギー地産地消による地域活性化

郡山市の地域特性・水素利活用の意義

「再エネ普及」と「CO₂フリー水素供給」

- 再エネのポテンシャルが高いものの、系統対策を要し普及を阻む要因
- 再エネ利用による「CO₂フリー水素供給」を行う『水素社会』の実現

災害対応能力強化

- エネファーム（災害対応型）の普及を促進し、停電時の電源等のバックアップ機能を強化
- FCVの外部給電機能を利用し、避難所等における電源確保に活用

水素関連産業の誘致・育成

- 産総研福島再生可能エネルギー研究所における水素貯蔵の技術開発との連携
- 水素関連産業の誘致を進め、人材育成に繋げることによる地域経済や雇用の拡大

「陸の港」、「東北地方の玄関」としての役割

- 首都圏と東北、洋と海を繋ぐ交通の要衝としての役割
- 県内及び東北地方における水素利活用の機運醸成

基本方針

本市の地域資源を最大限に活用し、エネルギーに関する取組みの一環として、水素利活用の推進、水素社会の実現に向けた取組みを積極的に行う

水素利活用に向けた取組みの方向性

◆環境負荷の低減

- エネファームの導入拡大、業務・産業用燃料電池の普及促進による CO₂削減
- FCV、FCバスの普及促進、及びこれらに欠かせない水素ステーションの設置



◆災害時における安全・安心の向上

- エネファームの普及促進により、停電時における電源・熱源のバックアップ機能を強化
- 避難所等における電源確保について、FCVの外部給電機能活用による災害対応能力の強化

◆水素・燃料電池関連産業の育成、活性化

- 水素・燃料電池関連産業の誘致、育成を通じて、市内の関連産業の活性化を推進
- 産学官連携の技術開発や共同研究を支援することによる水素利活用の拡大

◆市民への普及啓発・社会受容性の向上

- 水素関連イベント開催などを通じて、水素の有用性や安全性に関する知識の普及啓発
- エネファームやFCVの見学会、試乗会等を開催、普及啓発に向けた取組みを進めることによる市民生活への水素の普及拡大

推進体制

